

患者・家族の意思決定を支える看護のあり方

座長 増山路子[†] 釘宮泰子*第72回国立病院総合医学会
(2018年11月10日 於 神戸)

IRYO Vol. 75 No. 3 (222-225) 2021

要旨

これからの社会は、医療と介護と保健・福祉の3つが住まいという植木鉢から伸びる葉となり、この植木鉢を支えるのは「本人の選択と本人・家族の心構え」という構造図が地域包括ケアシステムとして紹介されている。このような社会で、「本人の選択」となる意思決定を支える力が看護職には求められる。看護職として活躍する人物を育成する使命を持つ看護基礎教育では、どのような課題があるのか、また教育内容と方法の精選が求められる。このセッションでは、医療現場における行動経済学の知識を学び、さまざまな看護実践事例のリフレクションから看護基礎教育への示唆を得たい。

自身で意思決定ができない小児看護領域での課題、がん看護における感情の共有、看護学生の実習体験の学びの活用など、豊富な看護・教育の経験を共有しながら考える。

キーワード 意思決定支援

現在、病院完結型の医療から地域完結型の医療へとシフトする中、人々が「自分らしく生き、自分らしい最期を迎える」ための支援が重要になってくる。支援の根底にあるのは、対象者が「自分はどうしたい」という意思を持ち、その意思を発出することが必要である。意思決定においてはいろいろな要素が複雑に関係しあう。誰にどのような情報を提供されているのか、そもそもその情報は対象者にどのように理解されているのか、対象者が思い描くような時間を生きていくためには、「自分自身で決める」ということの意味やプロセス、障害となる事柄や支援のあり方など、看護職者が理解すべきことが多岐にわたっている。

今回、看護学校で教育をする立場から、今求めら

れている意思決定支援について多面的に検討しこれからの社会に求められる看護師の能力の育成に活かしたいと考えた。

シンポジストには理論的に意思決定のメカニズムを説明していただく医療経済学の立場から1名、自分の意思をうまく伝えることができない、または意思決定が未熟な子どもとご家族を支えてきたご経験を紹介していただく小児看護専門看護師、治療・生き方に関しての意思決定を必要とするがん患者を支えてきたご経験を紹介していただくがん看護専門看護師、そしてこれからの医療現場で活躍する人材に対して教育をする立場である看護教員、以上の4名の方から講演いただいた。

医療経済学の立場からは、大阪大学大学院人間科

国立病院機構大阪医療センター附属看護学校、(現所属：社会医療法人 愛仁会本部) *国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校 †看護師(教員)

著者連絡先：増山路子 社会医療法人 愛仁会本部 看護担当特任理事 〒555-0001 大阪市西淀川区佃2丁目2番46号 e-mail: masuyama.michiko@aijinkai-group.com

(2019年3月11日受付、2020年2月14日受理)

Study on Educational Methods that Ease Nurses' Difficulties in the Process of Decision Making Support

Michiko Masuyama and Yasuko Kugimiya*, NHO Osaka National Hospital Nursing School, *NHO Kyoto Medical Center School of Nursing and Midwifery

(Received Sep. 11, 2019, Accepted Feb. 14, 2020)

Key Words : support decision making